



人を想い、
地球を想う。

第99期 中間報告書

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで



三ツ星ベルト株式会社

海外売上高が大幅に増加。 成長市場における販売活動をさらに強化していきます。

株主のみなさまには、平素格別のご高配を賜り、有難く厚くお礼申し上げます。

第99期第2四半期連結累計期間の概況をお届けするにあたりまして、株主のみなさまのご懇情に心から厚くお礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、アベノミクス効果によって円安と株高が進行し、消費の持ち直しと設備投資の改善、公共投資の拡大などによって、景気は緩やかに回復しました。

このような環境のもと、当社グループはアジア圏を中心とした成長市場における販売活動を強化するとともに生産体制の再構築を推進し、経営の効率化と一層のコスト削減に取り組んでまいりました。

その結果、アジア圏を中心とした海外の売上高が堅調に推移し、かつ、為替の円安が進行したことなどにより、業績予想を上回る売上高・利益を計上いたしました。当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高312億88百万円（前年同期比13.2%増）、営業利益30億98百万円（前年同期比10.3%増）、経常利益34億94百万円（前年同期比37.3%増）、四半期純利益23億89百万円（前年同期比53.1%増）となりました。

中間配当につきましては、1株につき7円、支払開始日を平成25年12月3日と決定させていただきました。

今後の企業を取り巻く環境は、米国経済の動向などの不安定要因があるものの、海外及び国内の経済は緩

やかに回復するとの観測が広がっています。当社製品の需要はアジア圏を中心に堅調に持続し、また、為替水準も円安基調で推移すると見られます。

このような状況のもとで、当社グループといたしましては、三ツ星ベルトグループ全体で一段と経営の効率化とコスト削減に取り組むとともに、柔軟な生産体制の確立と販売体制の強化並びに強固な財務体質づくりを推進いたします。また、次世代の産業分野のニーズに対応できる「高機能、高精度、高品質な製品づくり」を目指すため、引き続き研究開発体制の強化・充実を図り、業績の確保に努めてまいります所存であります。

株主のみなさまには、今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成25年12月



代表取締役会長

西河 紀男



代表取締役社長

垣内 一

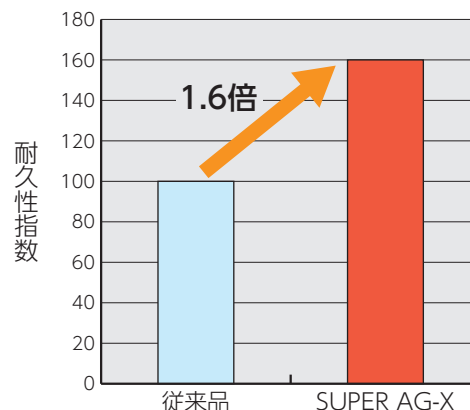
農業機械用Vベルトの新シリーズとして “SUPER AG-X” を開発・販売開始

“SUPER AG-X” は、新開発のカバー布とV芯ゴムを採用することで、耐摩耗性・耐衝撃性を向上させ、従来品に比べ高い耐久性を実現しました。

農業機械の大型化に伴い、耐久性に優れたベルトの需要が高まっています。既に国内外で販売を開始しており、また農業機械メーカーに納入を開始しております。



SUPER AG-X 耐久性



“SUPER AG-X” は、
耐摩耗性に優れた特殊帆布のカバー布と、
高弾性を有した短繊維補強CR配合ゴムを
使用しています。

連結業績の概況

当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高312億88百万円(前年同期比13.2%増)、営業利益30億98百万円(前年同期比10.3%増)、経常利益34億94百万円(前年同期比37.3%増)、四半期純利益23億89百万円(前年同期比53.1%増)となりました。

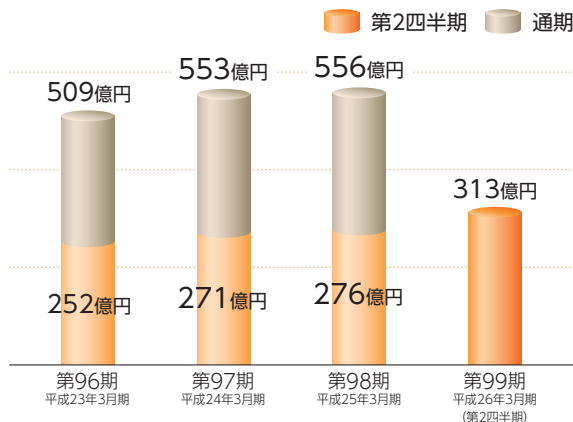
当第2四半期連結会計期間末は、たな卸資産の増加等により流動資産が10億60百万円、有形固定資産が8億95

百万円、株価の上昇に伴い投資その他の資産が17億45百万円とそれぞれ増加した結果、総資産は前連結会計年度末比37億3百万円増加の764億93百万円となりました。

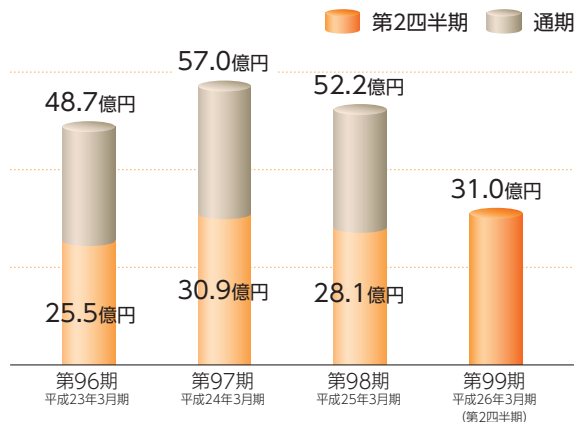
一方、負債は、固定負債が4億62百万円減少したことにより、前連結会計年度末比6億43百万円減少の280億1百万円となりました。

純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が19億

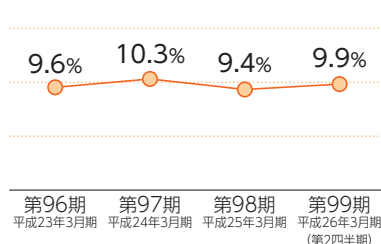
売上高



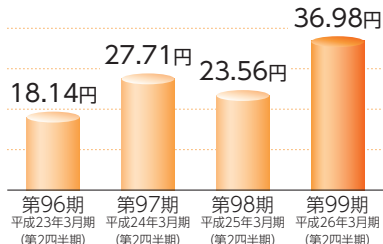
営業利益



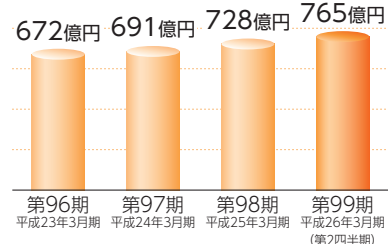
営業利益率



1株当たり四半期純利益



総資産



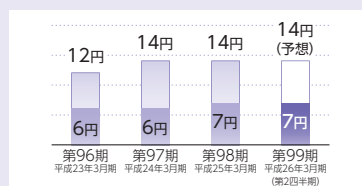
(注) 第98期より「在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更」を行ったため、第97期については、当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の数値を記載しております。

11百万円、株価の上昇及び為替が円安に推移した影響によりその他の包括利益累計額が24億36百万円とそれぞれ増加した結果、前連結会計年度末比43億45百万円増加の484億91百万円となりました。

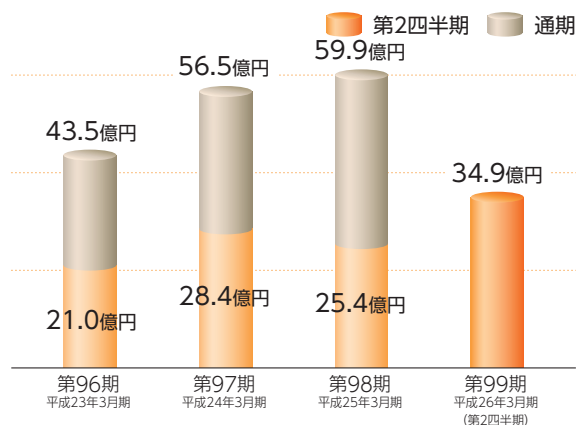
以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の60.6%から63.4%に上昇しました。

配当の状況

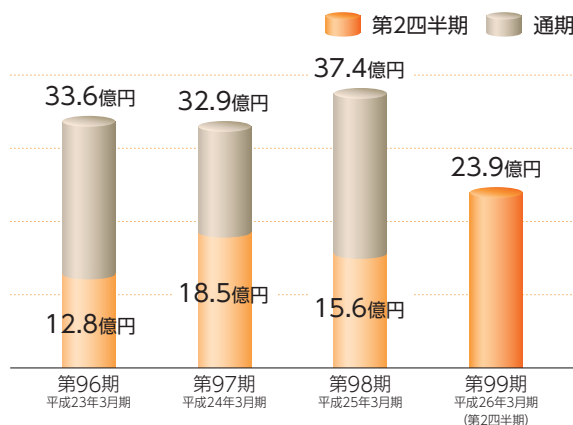
第2四半期末 **7円**
 〈 期末7円(予想)
 年間配当金 14円(予想) 〉



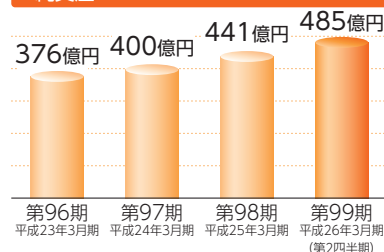
▶ 経常利益



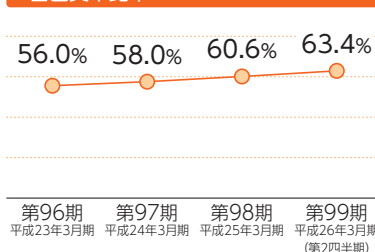
▶ 四半期(当期)純利益



▶ 純資産



▶ 自己資本比率




平成26年3月期連結業績予想

売上高	610億円
営業利益	59億円
経常利益	60億円
当期純利益	42億円

(注) 第98期より「在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更」を行ったため、第97期については、当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の数値を記載しております。

■ 事業部門別状況

事業区分	売上高構成比	
<p>国内ベルト事業</p> <p>売上高 131億6 百万円</p> <p>営業利益 31億27 百万円</p>	<p>41.9%</p>	
<p>海外ベルト事業</p> <p>売上高 141億82 百万円</p> <p>営業利益 10億22 百万円</p>	<p>45.3%</p>	
<p>建設資材事業</p> <p>売上高 21億3 百万円</p> <p>営業利益 28 百万円</p>	<p>6.7%</p>	
<p>その他</p> <p>売上高 18億95 百万円</p> <p>営業利益 1億63 百万円</p>	<p>6.1%</p>	

概況

自動車用ベルトの新車組み込みライン用は、エコカー補助金終了後の落ち込みから回復傾向にあり、前年同期並みに推移しましたが、補修用ベルトの需要が減少し、全体では売上高が減少しました。

また、為替の円安進行によりユーザの海外生産移管の流れが鈍化しつつあることから、OA機器用ベルトの売上高は前年同期を若干下回る結果にとどまり、一般産業用ベルトは増加しました。

一方、運搬ベルトは積極的な新製品の投入が売上拡大に寄与するとともに、合成樹脂素材も自動車関連部品が伸長し、いずれも売上高が増加しました。

その結果、当事業の売上高は131億6百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は31億27百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

欧州では、自動車用ベルトは現地通貨ベースでは前年同期を下回る結果となりましたが、一般産業用ベルトは農業機械用を中心に売上高が拡大し、全体では前年同期並みとなりました。

また、米国では、自動車用ベルトと一般産業用ベルトの売上高はいずれも堅調に推移しました。

一方、アジアでは、積極的な拡販活動により、中国やインドネシアを中心に一般産業用・自動車用・OA機器用ベルトの売上高がいずれも大幅に増加しました。

当事業全体の売上高は現地通貨ベースで10%を超える伸びとなった上に、為替レートが前年同期と比較し円安になったことにより、邦貨ベースでは大幅な増加となりました。

その結果、当事業の売上高は141億82百万円（前年同期比37.7%増）、営業利益は10億22百万円（前年同期比136.4%増）となりました。

建築部門は、公共投資や民間の改修工事が期間の後半にかけて回復の動きが見えましたが、前半の落ち込みをカバーするまでには至らず、売上高が減少しました。

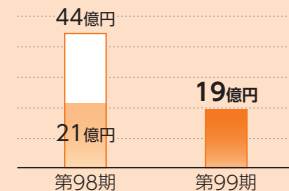
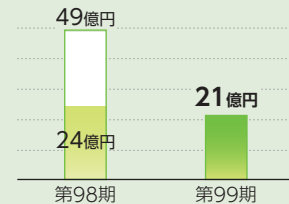
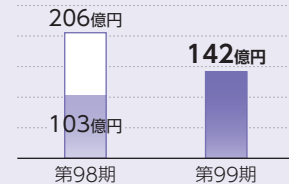
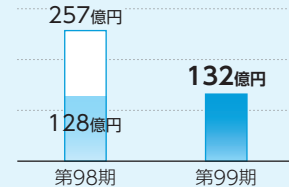
また、土木部門では、前年同期に比べ大型物件が少なかったことから、売上高が減少しました。

その結果、当事業の売上高は21億3百万円（前年同期比11.3%減）、営業利益は28百万円（前年同期比63.6%減）となりました。

その他には、エンジニアリング ストラクチャル フォーム、ナノ粒子を応用した新製品、仕入商品等が含まれております。

その他の売上高は18億95百万円（前年同期比10.9%減）、営業利益は1億63百万円（前年同期比248.0%増）となりました。

売上高の推移



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

Point 1 流動資産

流動資産は、たな卸資産が3億39百万円増加したことなどにより、前期末に比べて10億60百万円増加しました。

Point 2 固定資産

固定資産は、新規設備投資に伴う有形固定資産が8億95百万円増加、株価の上昇に伴い投資その他の資産が17億45百万円とそれぞれ増加したため、前期末に比べて26億43百万円増加しました。

Point 3 純資産

純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が19億11百万円、株価の上昇及び為替が円安に推移した影響によりその他の包括利益累計額が24億36百万円とそれぞれ増加したため、前期末に比べて43億45百万円増加しました。以上の結果、自己資本比率は前期末に比べて2.8ポイント上昇して63.4%となりました。

科目	前期末 平成25年3月31日現在	当第2四半期末 平成25年9月30日現在
資産の部		
流動資産	42,135	43,195
現金及び預金	14,875	14,706
受取手形及び売掛金	12,808	13,531
その他	14,450	14,956
固定資産	30,655	33,298
有形固定資産	20,808	21,703
無形固定資産	76	79
投資その他の資産	9,770	11,515
資産合計	72,790	76,493
負債の部		
流動負債	19,505	19,324
固定負債	9,139	8,677
負債合計	28,644	28,001
純資産の部		
株主資本	42,138	44,047
資本金	8,150	8,150
資本剰余金	5,480	5,480
利益剰余金	31,917	33,828
自己株式	△ 3,410	△ 3,412
その他の包括利益累計額	2,008	4,444
純資産合計	44,146	48,491
負債純資産合計	72,790	76,493

(注) 表示金額は、百万円未満を切り捨てております。

四半期連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	前第2四半期(累計) 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	当第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
売上高	27,637	31,288
売上原価	19,215	21,960
販売費及び一般管理費	5,613	6,229
営業利益	2,809	3,098
営業外収益	284	614
営業外費用	549	218
経常利益	2,544	3,494
税金等調整前四半期純利益	2,544	3,494
法人税等	983	1,104
少数株主損益調整前四半期純利益	1,560	2,389
四半期純利益	1,560	2,389

(注) 表示金額は、百万円未満を切り捨てております。

▶ Point 4 売上高

売上高は、前年同期に比べて海外市場における販売活動の強化等により36億51百万円増加し、312億88百万円となりました。

▶ Point 5 経常利益

経常利益は、円安に伴う為替差益の計上などにより前年同期に比べて9億50百万円増加の34億94百万円となりました。

▶ Point 6 四半期純利益

四半期純利益は、税金等調整前四半期純利益が9億50百万円増加したことにより、前年同期に比べて8億29百万円増加の23億89百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	前第2四半期(累計) 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	当第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,753	3,244
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 991	△ 1,851
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,707	△ 1,751
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 15	177
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	40	△ 181
現金及び現金同等物の期首残高	14,808	14,317
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	392	—
決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	15
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,241	14,150

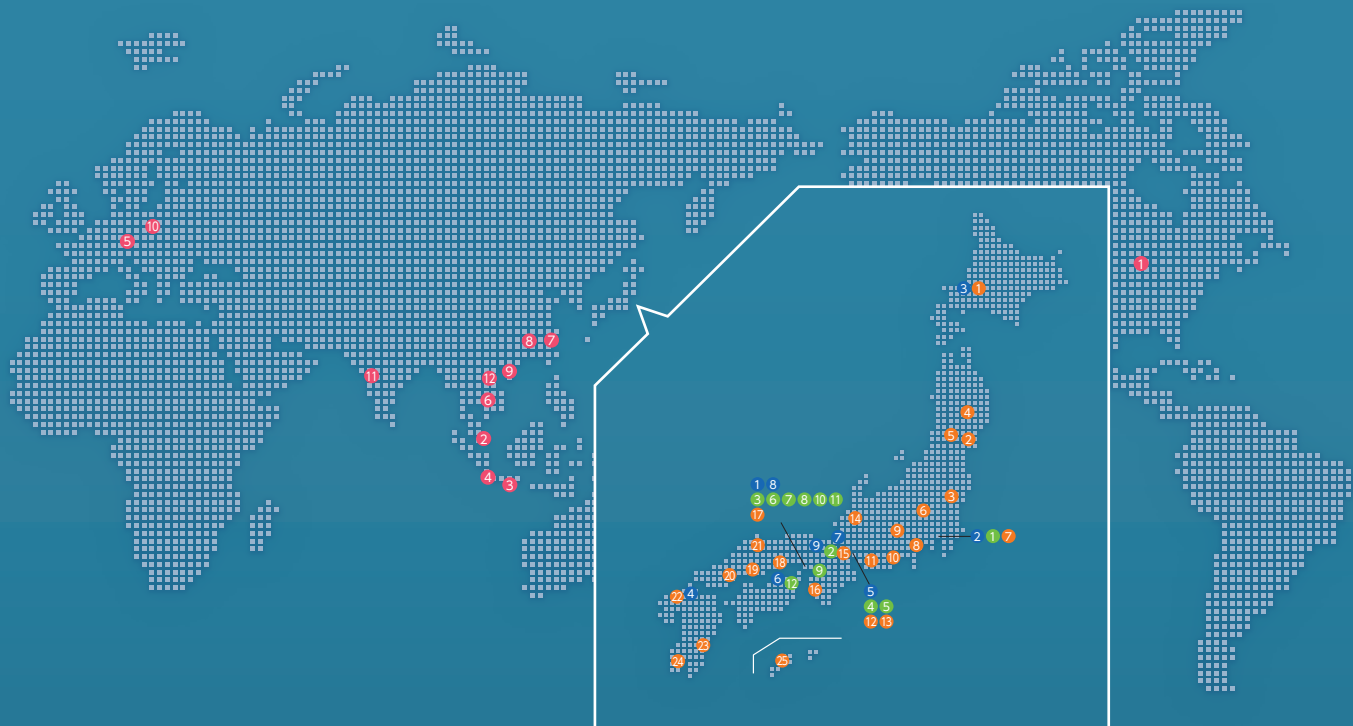
(注) 表示金額は、百万円未満を切り捨てております。

▶ Point 7 四半期連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べて4億91百万円増加の32億44百万円の収入となりました。主な要因は、前年同期に比べて税金等調整前四半期純利益が9億50百万円増加したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べて8億60百万円減少の18億51百万円の支出となりました。主な要因は、前年同期に比べて有形固定資産の取得による支出が8億72百万円増加したことによるものです。

また、当期連結子会社の決算期の変更を行ったため、現金及び現金同等物が15百万円増加し、現金及び現金同等物の四半期末残高は141億50百万円となりました。



国内の生産・販売拠点

三ツ星ベルト株式会社

- ① 神戸本社
- ② 東京本社
- ③ 札幌営業所
- ④ 福岡営業所
- ⑤ 名古屋工場
- ⑥ 四国工場
- ⑦ 滋賀工場
- ⑧ 神戸事業所
- ⑨ 綾部事業所

三ツ星ベルトグループ会社

- ① 三ツ星ベルト販賣(株)
- ② 三ツ星コード(株)
- ③ 三ツ星ベルト工機(株)
- ④ 三ツ星ベルトコンベヤ(株)
- ⑤ 三ツ星ベルト樹脂(株)
- ⑥ 三ツ星ベルト技研(株)
- ⑦ 三ツ星物流工産(株)
- ⑧ ミベック(株)
- ⑨ ネオ・ルーフィング(株)
- ⑩ 神戸三ツ星サービス(株)
- ⑪ エムエムコート(株)
- ⑫ エム・ビ・エル・総合サポート(株)

三ツ星ベルト販賣株式会社

- ① 札幌営業所
- ② 仙台営業所
- ③ いわき営業所
- ④ 盛岡営業所
- ⑤ 山形営業所
- ⑥ 北関東営業所
- ⑦ 東京営業所
- ⑧ 神奈川営業所
- ⑨ 山梨営業所
- ⑩ 静岡営業所
- ⑪ 浜松営業所
- ⑫ 名古屋営業所
- ⑬ 小牧営業所
- ⑭ 金沢営業所
- ⑮ 長浜営業所
- ⑯ 和歌山営業所
- ⑰ 神戸営業所
- ⑱ 岡山営業所
- ⑲ 福山営業所
- ⑳ 広島営業所
- ㉑ 松江営業所
- ㉒ 福岡営業所
- ㉓ 宮崎営業所
- ㉔ 鹿児島営業所
- ㉕ 沖縄営業所

海外の生産・販売拠点

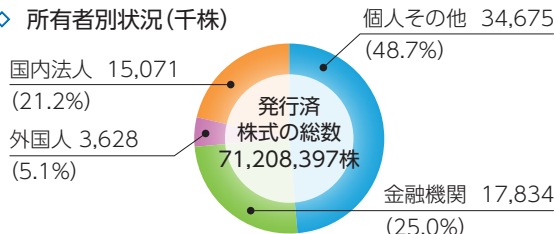
- ① MBL(USA) CORPORATION
- ② MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED
- ③ P.T. SEIWA INDONESIA
- ④ PT. Mitsuboshi Belting Indonesia
- ⑤ MBL Antriebstechnik Deutschland GmbH
- ⑥ Stars Technologies Industrial Limited
- ⑦ 上海共星機帶國際貿易有限公司
- ⑧ 蘇州三之星機帶科技有限公司
- ⑨ MOI TECH HONG KONG LIMITED
- ⑩ MITSUBOSHI POLAND Sp. z o.o.
- ⑪ MITSUBOSHI BELTING-INDIA PRIVATE LIMITED
- ⑫ Mitsuboshi Belting VIETNAM Co., Ltd.

株式の概況 (平成25年9月30日現在)

1.株式

- ◇ 発行可能株式総数 325,213,000株
- ◇ 発行済株式の総数 71,208,397株
- ◇ 株主数 7,496名

◇ 所有者別状況(千株)



2.大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,572,000	6.42
トヨタ自動車株式会社	2,355,125	3.31
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,340,550	3.29
星友持株会	2,230,870	3.13
小田田 欽造	2,070,000	2.91
西松建設株式会社	2,000,000	2.81
三ツ星ベルト社員持株会	1,696,130	2.38
日本生命保険相互会社	1,562,875	2.19
三井物産株式会社	1,500,000	2.11
東京海上日動火災保険株式会社	1,376,804	1.93

(注) 上記のほか当社所有の自己株式6,592,726株があります。

会社の概要 (平成25年9月30日現在)

- ◇ 商号 ミツ星ベルト株式会社
Mitsuboshi Belting Ltd.
- ◇ 創業 大正8年10月10日
- ◇ 設立 昭和7年10月10日
- ◇ 資本金 81億5,025万1,031円
- ◇ 従業員数 712名
- ◇ 営業品目
 - ベルト V型ベルト、歯付ベルト、伝動機器・装置、運搬ベルト及び装置、ポリウレタン製工業用品、合成樹脂素材、その他ベルト
 - 建設資材 建築用防水シート、土木用遮水シート
 - その他 エンジニアリングストラクチャル フォーム、その他

- ◇ 事業場
 - 神戸本社 神戸市長田区浜添通4丁目1番21号 ☎(078)671-5071代表
 - 東京本社 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 ☎(03)5202-2500代表
 - 札幌営業所 札幌市豊平区豊平二条3丁目1番17号 ☎(011)841-9135代表
 - 福岡営業所 福岡市博多区板付1丁目3番1号 ☎(092)441-4451代表
 - 名古屋工場 愛知県小牧市大字西之島1818番地 ☎(0568)72-4121代表
 - 四国工場 香川県さぬき市津田町津田2893番地 ☎(0879)42-3181代表
 - 滋賀工場 滋賀県高島市マキノ町寺久保100番地2 ☎(0740)27-0133代表
 - 神戸事業所 神戸市長田区浜添通4丁目1番21号 ☎(078)671-5071代表
 - 綾部事業所 京都府綾部市城山町7番1 ☎(0773)43-3051代表

役員 (平成25年9月30日現在)

代表取締役会長	西河紀男	常務執行役員	黒野正治
取締役副会長	喜田宏	常務執行役員	對川芳憲
代表取締役社長兼社長執行役員	垣内一	常務執行役員	熊野格夫
取締役兼常務執行役員	山口良雄	執行役員	竹中昌弘
取締役兼常務執行役員	中嶋正仁	執行役員	羽村健
取締役兼常務執行役員	小田芳裕	執行役員	佐々木孝
取締役兼常務執行役員	片山孝	執行役員	増田健吉
		執行役員	西河俊伸
		執行役員	池田浩
		執行役員	陳振耀
監査役(常勤)	井ノ口正弘	執行役員	伊藤辰雄
監査役	奥島吉雄	執行役員	森野峰雄
監査役	宇佐美貴史		
監査役	若林邦昌		

(注) 監査役宇佐美貴史及び若林邦昌の両氏は、社外監査役であります。

会計監査人 新日本有限責任監査法人

株主メモ

- ◇ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- ◇ 定時株主総会 6月
- ◇ 単元株式数 1,000株
- ◇ 剰余金の配当の基準日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
- ◇ 上場金融商品取引所 東京
- ◇ 株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話(通話料無料)0120-094-777
- ◇ 公 告 方 法 電子公告により行う。
公告掲載ホームページは、http://www.mitsuboshi.co.jp/japan/denshi_koukoku/index.htmlに掲載しております。
なお、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



当社ホームページでも、最新のIR情報をご案内しております。

www.mitsuboshi.co.jp

UD FONT



この冊子の印刷には、環境に配慮した
植物油インキを使用しています。